

新年号
2020
元旦

あくせす

Access

九州旅客鉄道労働組合
大分地方本部

大分市大道町1丁目8番1号
097-543-2223

発行責任者 佐藤守洋
編集責任者 竹下功人



LINE@

JR九州労組公式アカウント

ID ... @yqw2478t



2020年は、十干が庚（かのえ）で、十二支が子（ねずみ）ですので干支は庚子（かのえね）となります。庚子（かのえ）の年は『更』という字に通じ、植物の生長が止まって新たな形に変化しようとする状態を指すとされ、子（ねずみ）の年は、増えるという意味合いがあり、草木の生命を始めとした命が誕生しようとする意味があります。このことから2020年は動きがあり、新しいものを作ろうとする年になりそうです。



組合員ならびにご家族の皆さま、新年明けましておめでとうございます。本年もJR九州労組大分地方本部に対しまして、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

さて、平成時代が終わり、新天皇とともに令和元年が輝かしくスタートしました。日本各地でお祝いムードが漂い、平和で豊かな日本である事を心から願ったのではないのでしょうか。しかし、日本はご承知のとおり、自然災害の猛威に襲われています。東日本大震災から約9年が経過しますが、今なお5万人近くの方々が避難生活を余儀なくされています。この9年間でこれだけの災害が発生したか、JR九州も「平成28年熊本地震」「平成29年九州北部豪雨」「平成29年台風18号」で、甚大な被害を受けている事となりました。懸命な努力の結果、確実に復興に向けて兆しが見えており、豊鉄本線全線開通については、2020年度中に開通させる事が明らかになりましたが、日田彦山線については、関係自治体との解決策を含め、不透明な状況が続いています。今世界各国で地球温暖化について議論がされており、CO2の削減に向けて各国の方針が示されていますが、取り組む姿勢にバラツキがあるのも事実ですが、取り組む暖化の影響こそが、いつ発生してもおかしくないとする、南海トラフ等への大災害を発生させる要因になる事は確かであり、私たちは、日常生活においても、最低限必要な緊急用品を備えておく必要があります。加えて、日本はこれから少子高齢化が深刻な問題となつてきます。今後10年で600万余りが減少すると予測されています。その結果、生産年齢人口は、700万人まで落ち込み、65才以上の人口は36,000人を突破することとなります。2025年には、日本人の3人に1人が65才以上、5人に1人が75才以上となり、社会保障給付費は大きな負担となる事も明らかであり、加えて、昨年10月から実施した消費税10%への引き上げにあたって「軽減税率制度」は、事業主、消費者ともに理解がされないうまま実施がされました。安倍政権の失態は、大いに実証されています。国民を慮るうする出来事も多く報道されており、国会審議の中でも、野党が追及するも必死で揉み消しを図る事態が続いています。この国は一体どうなっていくのか、大きな不信が残る今こそ、野党の総力を結集し、政権奪回することが私たちの使命であると考えています。



大分地本委員長
佐藤 守洋

以上のような情勢の中で、三点について所信を述べさせていただきます。

はじめに、安全問題についてであります。2002年に鹿児島本線列車衝突事故が発生しました。幸いにして死者はなかったものの、多くの犠牲者を出す事となりました。二度と事故を起こさない、させない為に、労使で過去の教訓を風化させる事のないよう教育の徹底を図っていきながら、残念ながらグループ会社において、四重大事故は止まる事なく発生しています。慣れない作業も原因の一つと考えられますが、業務移管そのものに問題はないのか、要員需給の問題はどうなのか、しっかりと見極める責任は大きいと考えており、今後ともグループ会社と連携を図り、安全問題の取り組みについて議論をしていきたいと考えています。

次に組織問題についてであります。JR九州労組が結成された26年が経過しました。この間にJR九州も株式上場を果たし、新たなステージに向け取り組んでいます。株式上場後は株主の意見等も反映される中で、JR九州が挑む経営方針に対して、より一層の厳しさを感じています。この間、JR九州労組は組織拡大を掲げ、現在、九州全体では約7,300人、大分は約630人の組織数となっています。毎年減少傾向にある状況の中で、経費削減に向けて努力をしていますが、厳しい状況が続いています。

今後は、大分地本も昨年12月11日に開催した各級機関代表者会議の中で、本年2月に組織財政委員会を設置し、組織機構の見直し、分会交付金の見直し、大会代議員規約等の見直しについて議論を進め、大会承認を受けて行きます。また、本年ダイヤ改正及び各種効率化施策等についても提案がされましたが、要員削減、グループ会社への業務移管なども検討されていることから、関係分会と連携を図り、会社側との協議を積み重ねて行きます。JR九州労組は、昨年「新中期政策ビジョン2019-2023」を作成しました。労働環境改善に向けて全力で取り組み、組合員に信頼される運動を目指して行きます。そして、JR採用者が次のステージに挑戦する事となりますが、諸先輩方のご指導のもとで、組織強化に取り組んで行きます。

次に、2020春闘の取り組みです。労働者において、賃金こそが最大の労働条件を掲げ、春闘に取り組んでいます。この間、5年連続でベアを勝ち取り、制度要求についても多くの改善ができています。特に、地域社員の賃金、制度改善については、責任組合として大きな成果を出したと言えます。2020春闘においても要求実現に向けて取り組んで行きます。昨年の労働協約改訂交渉妥結時に55歳以降の労働条件については、70歳までの雇用の道が開けたことは評価するもの、我々が目指すべき労働条件に到達していないことから、JR九州労組の「協立と対立」の理念に基づき「是々非々」で

議論を行い、一刻も早く人事・賃金制度の抜本的な見直しを求め取り組んで行きます。

最後に、本年は東京オリンピック開催の年でもあります。公共交通機関で働く者として「安全・安定輸送の確保」を基本とし、JR九州とグループ企業で働く、組合員、ご家族の皆さまが素晴らしい年であります事を、ご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



大分地方本部	執行委員長	佐藤 守洋
執行副委員長	鬼塚 誠治	遠藤 晃元
書記長	川崎 淳史	
執行委員	難波 健介	小野 恵民
	為末 浩二	山元 功人
	竹下 信一	大場 信一
特別執行委員	杉本 涼	高橋 俊来
会計監査	生野 利春	中野 啓蔵
職員	後藤 優子	加来 まゆみ

本年も、よろしく
お願い致します。